人生という航海で、一隻でも多くの船と出会いたい

当 HP 記事「わざわざ会いに来てくれたその気持ちが、何とも嬉しい！（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ⅳ）、2008.05.23.：参照）」を目にしてくれたあるメル友から次のような問いかけ（抜粋）があった。

【　阿部さんのＨＰを見ていると、「元気をもらった」という方が多いようですが、阿部さんはどうして人を元気づけることが出来るのですか。

また、私からのメールにも必ず返信をくださいますし、メル友は結構な数だと思いますが、疲れないですか。いつ休んでいるのですか。　】

つい、次のように返信させていただいた。

【　云われてみれば、「元気が無くなってきた時、ＨＰを覗かせてもらって、元気をもらっているんですよ！」とメールをくださった方もいます。

でも、「人を元気づけよう！」などと意識したことはありませんよ　(^_^)

ただ、難病や障害があろうがなかろうが、我々はそれぞれに事情を抱えながらも、「今を生きてる（大海原を航海している）」ということではみんな同じと思っています。

そして、大海原の航海で出会う船には、だれでも互いの船に無意識の内に声をかけ、手を振り合うと思います。

また、いつ嵐に遭い大波に飲み込まれるかもしれないだけに、互いの無事な航海を願い合うだろうと思います。

メールへの返信にしても、大海原で出会う船からの手旗信号には、必ず手旗信号で応じるはず。

「コミュニケーションには受信したことを発信し返すことが大事」と日頃から思っていますから、手旗信号同様に、いただいたメールには間をおかず返信するようには心懸けています。

また、HP からの発信は、私なりに手旗を振っているということかもね　(^_^)v

こうして大海原で偶然出会う船とコミュニケーションするいうことは、逆に自分の航海にも元気をもらっていますので、元気回復のための休息の必要性がないということかな　(^_^)/

あえて究極的な言い方をすれば、人は産まれる時も一人なら、死ぬ時も一人。

人生とは一人から一人への航海の旅とも云えます。なら、大海原でどれだけ多くの船に出会えるかが人生という航海そのものとも云えます。

ですから、一隻でも多くの船と出会いたいし、一時であっても一隻でも多くの船と並走したいですよね。

自分は、ただそう思って日々過ごしている、実に単純なだけの人間です　(^_^)/~　】

阿部幸泰　　（2008 年 6 月 12 日　記）